

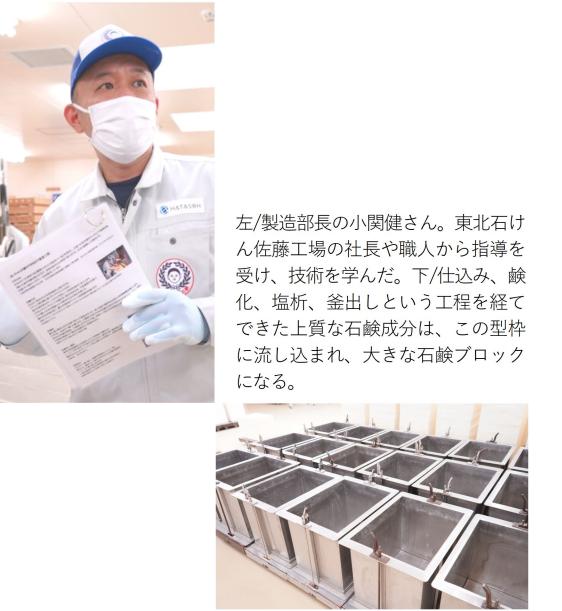


取締役・工場長の諸伏昭和さん。
高品質、天然成分にこだわりながら、新しい商品の開発にも意欲的。



右/型枠に流し込まれた石鹼成分は、手作業で攪拌、練り上げている。左/段切りを終えた板状の石鹼ブロック。1枚あたり約13キロにもなり、坊っちゃん石鹼（ピンクのパッケージ）66個分になる。このまま自然乾燥させ、棒切りの工程に進む。

常に職人の目で、手で。
機械では生み出せない
唯一無二の石鹼が作られる。



左/製造部長の小関健さん。東北石鹼佐藤工場の社長や職人から指導を受け、技術を学んだ。下/仕込み、鹼化、塩析、釜出しという工程を経てできた上質な石鹼成分は、この型枠に流し込まれ、大きな石鹼ブロックになる。



「段切り」と呼ばれる製造工程。固まった石鹼ブロックに木枠をはめ、ピアノ線を使って2人がかりで切り出す。息が合わないときれいに切り出せない。リズムよく軽快に作業しているように見えても、実際はなかなか力が必要。切り出した板状の石鹼は、重ねて自然乾燥させる。

地元の酒蔵の酒粕を使用した「純米酒粕石鹼」。沖縄・久米島の海洋深層水から生まれた「球美の塩」を配合した「球美の塩石鹼」。久米島が樂天天イーグルスのキャンプ地であることからコラボが実現。

「夏場だと石鹼が柔らかくて切りやすいのですが、冬場は石鹼が固くなるので、力も必要になりますし、ピアノ線が切れることもあります」

「夏場だと石鹼が柔らかくて切りやすいのですが、冬場は石鹼が固くなるので、力も必要になりますし、ピアノ線が切れることがあります」

「職員もびっくり。職人さんが二人がかりで石鹼を商品サイズに切る「駒切り」の作業を実際に見せていただきました。

「夏場だと石鹼が柔らかくて切りやすいのですが、冬場は石鹼が固くなるので、力も必要になりますし、ピアノ線が切れることがあります」

とにかく経験と熟練した技術が必要。わずかなズレで仕上がりに大きな差が出てしまう繊細な作業なのだそうです。「この部屋は空調がないので、釜の熱が加わって夏場は相当な気温になります。汗だくになるので、何度も着替える人もいますよ」

小関さんは笑いますが、熱中症になる危険もあるので注意が必要。こまめに交代しながら作業に当たっているそう。

残念ながら、その後東北石鹼さんは工場の老朽化などの理由から廃業を決断。その際、明治創業の仙台の老舗企業、株式会社 煙惣商店さんの煙文雄社長

が、99年前の大正12年。絹織物の製造が盛んだった仙台市若林区で、織物を傷めずに洗うためには多くの人に使ってもらうため、開発された石鹼が、そのルーツを開発した「東北石鹼佐藤工場」さんは、その高品質な石鹼をより多くの人に使ってもらいため、台所用石鹼「坊っちゃんマーク」の釜出し一番石鹼」を発売。以来、宮城県民に長きに渡つて愛されてきました。

坊っちゃん石鹼の材料は、食牛脂。水は浄化装置を通した軟水を使用しています。それらの材料をタンクに投入して、まずは仕込みの作業を行なう一晩寝かせたら、釜に投入して「鹼化（けんか）」と呼ばれる作業に移ります。

「熱の管理など、機械にすべてを頼るのではなく、職人が自分で見て調整を行なっています」

搅拌 자체は機械が行いますが、加熱の操作や、苛性ソーダの注入タイミングについてはすべて職さんが判断。実はこの鹼化という工程はとても難しく、と蒸気で加熱搅拌を行なう際も、搅拌時間も機械が行いますが、掛け時間を掛け、丁寧に。変わらない品質は、職さんの手によつて守られてきたことを目の当たりにしました。

これから百年も変わらず 愛される商品づくりを

「段切りの木枠は置いているだけなので、二人の息を合わせて切らないと曲がってしまって、一個一個の石鹼の重さが変わってしまうんです」

ひとひとつ別の工程に、手を掛け時間を掛け、丁寧に。変わらない品質は、職さんの手によつて守られてきたことを目の当たりにしました。

「次の百年も変わらず丁寧に継続していくたいですし、新しい商品づくりについて、工場長の諸伏さんに伺いました。

「次もまた変わらず丁寧に作り続けていきたいですし、新しい商品づくりにもチャレンジしていきます」

「おじいちゃん石鹼や、パッケージ作成も行ない、企業等からの依頼も多数。「純米酒粕石鹼」や、「球美（くみ）の塩石鹼」など、伝統の高品質はそのままに、魅力的な新商品を開発してきた煙惣商店さん。「変わらない」ことを守り続けたからこそ生まれる「新しさ」に今後も期待大です！」



記事で紹介した段切りの様子などを
左のQRコードより動画でご覧いただけます！

株式会社煙惣商店 名取工場
名取市愛島台1丁目2-5
TEL/022-383-2061
○営業時間／月～金 9:00～17:00

坊っちゃん石鹼本舗 長町本社
仙台市太白区長町3丁目9-1
TEL/022-248-0028
○営業時間／月～金 9:00～18:00 土9:00～17:00
<https://botchan-sekken.jp/>



新型コロナウィルス感
染拡大防止のため、
当面の間、工場見学
は受け入れていま
せん。



3.「棒切り」「駒切り」で使用する木製の台。木枠をセットし、石鹼ブロックを押し出してカットする。かなりの力が必要な作業で、背後の柱には、ふんばるための補強板が貼られている。

2.「棒切り」「駒切り」の際に使用する、ピアノ線の張られた木枠。ほとんどが大正時代から使用されてきたもので、木枠のサイズは「寸」で表記されている。「254」なら2寸5分4厘という意味になる。

4.5.棒状になった石鹼ブロックは面取りを行なってなめらかにし、また乾燥させる。6.「駒切り」に協会職員も挑戦！予想外の重さに驚き。7.「駒切り」でやっと商品サイズに。欠けや気泡がないかなど確認して自然乾燥、乾燥室での乾燥へと進む。時間を掛け熟成されることで、良質の石鹼になる。8.昔から使用している足踏み式のプレス機。石鹼の表面に坊っちゃんマークを型押しする。今は機械で行なうが、こちらも現役！